

2025 年度

教養教育履修要項

〔 医学部 薬学部 経済学部
人文社会学部 芸術工学部 総合生命理学部 〕

2 2025年度 教養教育学事日程

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	学 事
4 月			1	2	3	4	5	1 英語力調査 2 入学式 3 合同ガイダンス 4 学部別ガイダンス(新入生)
	6	7	8	9	10	11	12	4-11 (1)教養教育科目のweb履修登録 (抽選対象科目及びその他科目)
	13	14 ①	15 ①	16 ①	17 ①	18 ①	19	14 前期授業開始 前期前半授業開始
	20	21 ②	22 ②	23 ②	24 ②	25 ②	26	14-18 (2)履修登録状況確認期間 英語検定試験による単位認定申請期間
	27	28 ③	29 ③	30 ③				29 昭和の日【授業開講日】
5 月					1 ③	2 ③	3	7-13 履修取消期間 (1) 教養教育科目のWeb履修登録 ・各学期の抽選対象科目の抽選登録 ・抽選対象科目以外の履修登録 [前期] 前期、後期、通年科目の履修登録 [後期] 後期科目の履修(修正)登録 (2) 履修登録状況確認期間 ・Web登録した当学期科目の確認 ※当選した科目は変更できません。 ・抽選の結果、定員に達しなかった科目の追加登録
	4	5	6	7 ④	8 ④	9 ④	10	
	11	12 ④	13 ④	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17	
	18	19 ⑤	20 ⑤	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24	
	25	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31	
6 月	1	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7	11 前期後半授業開始 16-20 補講期間2(5限)
	8	9 ⑧	10 ⑧	11 ⑨	12 ⑨	13 ⑨	14	
	15	16 ⑨	17 ⑨	18 ⑩	19 ⑩	20 ⑩	21	
	22	23 ⑩	24 ⑩	25 ⑪	26 ⑪	27 ⑪	28	
	29	30 ⑪						
7 月			1 ⑪	2 ⑫	3 ⑫	4 ⑫	5	2-8 履修取消期間(後半科目) 14-18 補講期間3(5限) 21 海の日【授業開講日】 29 前期授業最終日 30-8/5 前期期末試験
	6	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑬	10 ⑬	11 ⑬	12	
	13	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑭	17 ⑭	18 ⑭	19	
	20	21 ⑭	22 ⑭	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26	
	27	28 ⑮	29 ⑮	30 ⑯	31 ⑯			
8 月						1 ⑯	2	6-9/25 夏季休業期間(8/6~9/25) 8 追試験願の提出期限 18 再試験・追試験受験許可者及び時間割発表 18-20 再試験受験 受付期間 18-22 集中講義予定期間(1) 27-29 前期追試験・再試験期間
	3	4 ⑯	5 ⑯	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
9 月		1	2	3	4	5	6	1-5 集中講義予定期間(2) 8-12 集中講義予定期間(3) 8 前期成績発表 8-12 (1)教養教育科目のWeb履修登録 (抽選対象科目及び その他科目の履修登録) 26 後期授業開始 後期前半授業開始 (2)履修登録状況確認期間 26-10/2 英語検定試験による単位認定申請期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26 ①	27	
	28	29 ①	30 ①					

■は、学部等事務室業務を取り扱いません。○は、講義開講日(数字は講義回数)です。

学期を[前半][後半]に分けて開講する「英語科目(1単位)」は全8回で完結します。[前半]①~⑧回 [後半]①~⑧回

※国民の祝日に関する法律に規定する休日は学則で休業日とされていますが、前期授業回数確保のため4月29日(火)と7月21日(月)を授業開講日とします。

※夏季休業期間は学則で9月30日までとされていますが、後期授業回数確保のため、9月26日(金)より授業を開始します。

※ 専門教育の学事日程は本表と異なる場合がありますので注意してください。

【後 期】

	日	月	火	水	木	金	土	学 事
10月		9/29 ①	9/30 ①	1 ①	2 ①	3 ②	4	9/26 後期授業開始
	5	6 ②	7 ②	8 ②	9 ②	10 ③	11	9/26-2 (2)履修登録状況確認期間 英語検定試験による単位認定申請期間
	12	13 ③	14 ③	15 ③	16 ③	17 ④	18	13 スポーツの日【授業開講日】
	19	20 ④	21 ④	22 ④	23 ④	24 ⑤	25	17-23 履修取消期間
	26	27 ⑤	28 ⑤	29 ⑤	30 ⑤	31 ⑥		28 開学記念日【授業開講日】 27-10/31 補講期間4(5限)
11月							1	
	2	3 ⑥	4 ⑥	5 ⑥	6 ⑥	7 ⑦	8	3 文化の日【授業開講日】
	9	10 ⑦	11 ⑦	12 ⑦	13 ⑦	14 ⑧	15	
	16	17 ⑧	18 ⑧	19 ⑧	20 ⑧	21 ⑨	22	21 後期後半授業開始
	23	24 ⑨	25 ⑨	26 ⑨	27 ⑨	28 ⑩	29	24 勤労感謝の日の振替休日【授業開講日】
	30							25-12/1 補講期間5(5限)
12月		1 ⑩	2 ⑩	3 ⑩	4 ⑩	5 ⑪	6	
	7	8 ⑪	9 ⑪	10 ⑪	11 ⑪	12 ⑫	13	12-18 履修取消期間(後半科目)
	14	15 ⑫	16 ⑫	17 ⑫	18 ⑫	19 ⑬	20	19-1/8 補講期間6(5限)
	21	22 ⑬	23 ⑬	24	25	26	27	24 開学記念日の振替休日 25-1/6 冬季休業期間
	28	29	30	31				
1月					1	2	3	
	4	5	6	7 ⑬	8 ⑬	9 ⑭	10	7 後期授業開始
	11	12	13 ⑭	14 ⑭	15 ⑭	16	17	16 大学入学共通テスト準備のため休講 17・18 大学入学共通テスト (滝子キャンパス立入禁止)
	18	19 ⑭	20 ⑮	21 ⑮	22 ⑮	23 ⑮	24	26 後期授業最終日
	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑯	28 ⑯	29 ⑯	30 ⑯	31	27-2/2 後期期末試験
2月	1	2 ⑯	3	4	5	6	7	5 追試験願の提出期限
	8	9	10	11	12	13	14	10 再試験・追試験受験許可者及び時間割発表 10-13 再試験受験 受付期間
	15	16	17	18	19	20	21	18-20 後期追試験・再試験期間
	22	23	24	25	26	27	28	25・26 前期日程入学試験 (滝子キャンパス立入禁止)
3月	1	2	3	4	5	6	7	2 後期成績発表
	8	9	10	11	12	13	14	8 中期日程入学試験 12 後期日程入学試験 (滝子キャンパス立入禁止)
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	25 卒業式
	29	30	31					

は、学部等事務室業務を取り扱いません。○は、講義開講日(数字は講義回数)です。

学期を〔前半〕〔後半〕に分けて開講する「英語科目(1単位)」は全8回で完結します。〔前半〕①～③回〔後半〕①～④回

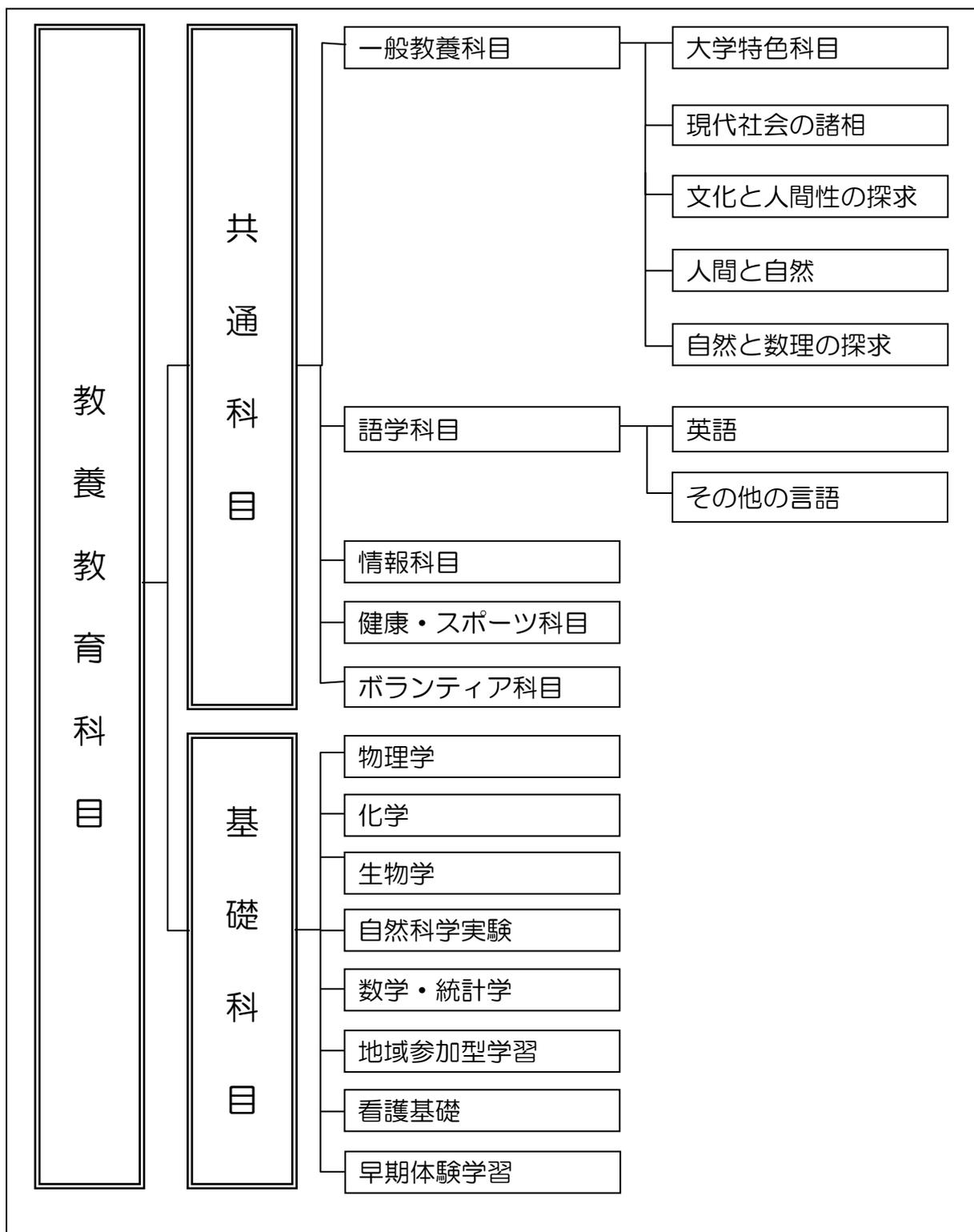
※国民の祝日に関する法律に規定する休日は学則で休業日とされていますが、後期授業回数確保のため10月13日(月)、11月3日(月)、11月24日(月)を授業開講日とします。

3 教養教育科目の概要

「教養教育科目」は7学部共通の授業科目群で構成されています。

このうち「大学特色科目」には、『初年次教育科目』が設置されています。全学の教育力を結集した初年次教育科目を積極的に選択してください。

また、それぞれの区分において履修すべき科目および単位数、必修・選択の別などについては、所属学部の履修規程に定められています。詳細は後掲「6 教養教育科目における修得必要単位数及び進級要件」及び専門教育履修要項を参照してください。



4 教養教育科目履修の手引き

(1) 教養教育科目における授業時間

	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	5 限目
開始	9 : 0 0	1 0 : 4 0	1 3 : 0 0	1 4 : 4 0	1 6 : 2 0
終了	1 0 : 3 0	1 2 : 1 0	1 4 : 3 0	1 6 : 1 0	1 7 : 5 0

(2) 単位数の基準

1 単位の学修内容は大学の内外合わせて 45 時間を基礎として、授業形態により次のように定めています。

- ア 講義 15 時間の授業をもって 1 単位
- イ 演習 15 時間又は 30 時間の授業をもって 1 単位
- ウ 実験、実習及び実技 30 時間の授業をもって 1 単位

前期及び後期それぞれの期間中、授業回数は 15 回を基本とします。時間割の 1 時限（コマ）は本学の場合 90 分間ですが、これを 2 時間と見なして単位を積算します。

主な授業科目の時間数及び単位数の関係は次のようになります。

授業の種類・方法	学 修 時 間		合計 (単位数)
	授業時間	自習時間	
講 義	30時間 (週 2 時間×15週)	60時間	90時間 (2 単位)
演 習	30時間 (週 2 時間×15週)	60時間	90時間 (2 単位)
	30時間 (週 2 時間×15週)	15時間	45時間 (1 単位)
実験、実習、実技	30時間 (週 2 時間×15週)	15時間	45時間 (1 単位)

(3) 授業科目等の説明

ア 授業科目

授業科目には「必修科目」「選択科目」及び「自由科目」があります。後掲「5 教養教育カリキュラム」には、必修科目は「●」、選択科目は「○」、自由科目は「自」と表記されています。また、いずれの表記もない科目は自学部のカリキュラムには存在しない科目ですので履修することはできません。

(ア) 必修科目

進級や卒業のために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目です。

(イ) 選択科目

必修科目以外にも進級・卒業のためには科目区分ごとに修得が必要な単位数が定められています。

これらの条件を充たすため、学部・学科ごとに指定された区分の中から各自で選択し、履修する科目です。

(ウ) 自由科目（卒業要件外科目）

進級・卒業要件の最低必要単位数には算入されない科目ですが、履修し、単位を修得することができます。

(9) 単位認定制度について

教養教育科目では、下記ア～カの単位認定制度があり、該当する学生は、所定の手続きにより単位が認定されます。いずれの場合も成績評価は「認定」となります。

ア 既修得単位認定

新たに本学の第1年次に入学した者の大学等における既修得単位（科目等履修生等として修得した単位を含む。）について教育上有益と認める場合は、学則第40条の規定により本学で修得した単位として認定することがあります。この場合、教養教育科目として30単位の範囲内で所属学部において認定します。

単位の認定を希望する学生は、所定期間内に教務企画課で手続きを行ってください。なお、手続き時には以下の書類が必要ですので、あらかじめ準備してください。

- (ア) 既修得単位認定申請書
- (イ) 認定を受けようとする科目に対応する、既に他大学等で履修した科目の講義概要を示した書類（シラバスのコピー等）
- (ウ) 履修要項、履修ガイド等（履修方法、カリキュラム等が掲載されている冊子）
- (エ) 学業成績証明書の原本1通（3ヶ月以内に発行されたもの）

申請期間	4月7日（月）9時～4月11日（金）17時
------	-----------------------

認定審査の結果は、教務企画課からお知らせします。

イ 外国の他の大学又は短期大学における修得単位認定

在学期間中に協定校留学などにより、外国の他の大学又は短期大学における修得単位がある場合、学則第39条の規定により本学で修得した単位として認定することがあります。この場合、専門教育科目での単位認定とあわせて最大30単位の範囲内で、所属学部の教授会の議を経て認定します。

単位の認定を希望する学生は、認定を希望する年度の4月から翌年の2月末日までの間に（末日が土日祝日にあたる場合はその前日までに）、所属学部の事務室へ申請して下さい。なお、申請には以下の書類が必要ですので、あらかじめ準備して下さい。

- (ア) 外国の大学等から送付された成績証明書（原本）
- (イ) 外国の大学等で単位修得した科目のシラバスとその日本語訳
- (ウ) 外国の大学等で単位修得した科目を修得するのに必要な学修時間（講義、演習、実技、実習、実験の各時間）を記載した文書。ただし、前号の書類により判明する場合は不要。
- (エ) その他必要と認める書類

認定審査の結果は、所属学部の事務室を通じてお知らせします。

ウ 英語検定試験による単位認定

外部機関が実施する検定試験（実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL）で所定の級位又は点数を得た場合、申請に基づき教養教育科目の英語科目の単位として最大4単位まで認定します。

検定試験の種類	語学科目[英語]	
	2単位	4単位
実用英語技能検定（S-CBT含む）	準1級	1級
TOEIC / TOEIC L&R	730～799点	800点以上
TOEFL（iBT）※	77～88点	89点以上

※Test Date スコアのみを認定対象とする。

(2) ボランティア活動日誌およびレポートの作成

履修登録時に配布される「ボランティア活動日誌」に活動内容を記録し、活動日毎に団体担当者の署名をもらいます。また、活動終了後に「ボランティア活動レポート」（800字以上・様式自由）を作成してください。

(3) ボランティア活動日誌およびレポートの提出

当該年度の授業終了日までに、教務企画課まで「ボランティア活動日誌」および「ボランティア活動レポート」を提出してください。

(4) 単位認定審査

教養教育関係会議での審議後、各学部教授会の議を経て単位を認定します。

(10) 聴講について

本学の学部学生・大学院学生で、教養教育科目の聴講を希望する場合は、科目担当教員が承認した場合に限り、受講することができます。（単位は付与されません。）科目の聴講を希望する場合は、各学期の履修登録期間中に教務企画課へ届出をしてください。

(11) リメディアル教育について

「リメディアル教育」とは、学生の基礎学力の修得を補完するために実施する課外の補習教育です。高等学校での未履修科目、入学試験での非選択科目、入学試験区分における試験科目の違い等の学力平準化に向け考慮すべき事情がある高等学校課程の科目について、特別講師による授業が行われます。なお、いずれの科目も単位の付与はありません。

リメディアル教育に関する問い合わせ・受講申し込み先は、所属学部の学部事務室です。

学 部	リメディアル教育科目
経済学部	数 学

5 教養教育カリキュラム

下記一覧表中、「●」＝必修科目、「○」＝選択科目、「自」＝自由科目、*印＝指定科目
 「●」「○」「自」いずれも記載がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

【履修に関する注意事項】

- (1) 一般教養科目（大学特色科目、現代社会の諸相、文化と人間性の探求、人間と自然、自然と数理の探求）及び語学科目
 （英語）は抽選対象科目のため、履修登録の方法が通常とは異なりますので注意してください。
- (2) 自由科目は進級・卒業要件の最低必要単位数には算入されませんが、他の選択科目と同様に履修し、試験に合格すれば
 単位を修得することができます。
- (3) 履修登録者数が少数の場合、非開講となる場合があります。

(1) 授業科目及び配当年次、単位数

一般教養科目 大学特色科目

(抽選対象科目)

授業科目（副題）	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* NCUラーニング・コンパス	講義	1	前	1	●	●	●	●	●	●	●	●	
ヘルシーライフ	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
キャリアデザインA (キャリア形成に備えた学び)	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期 2クラス開講
キャリアデザインB (キャリアに関わる学び)	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：医療系	初年次	講義	1	前	2	自	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：自然系		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	集中講義
SDGsを考える：数理情報系		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：社会科学系		講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	
SDGsを考える：人文系		講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	
名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
科学館・博物館・美術館から知る名古屋	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	名古屋市教育委員会との連携講義
近世名古屋の歴史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
大学生から始めるESD	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講
まちづくり論	講義	1		1	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講
キャリアデザイン（実践編）	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	後期 2クラス開講
起業家になる	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義
地域社会で活躍する女性	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ワークライフバランスとダイバーシティ	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
多文化共生と国際貢献	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	名古屋国際センター連携講義
持続可能な社会と私たち	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ESDと地域の環境	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	中部ESD拠点連携講義
次世代エネルギーワークショップ	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義
ソーシャル・デザイン実践編	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義

一般教養科目 現代社会の諸相

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
日本国憲法	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
なぜ憲法が必要なのか	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
現代社会と法	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
知的財産権入門	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	自	○	日本弁理士会東海支部との連携講義
人と法と医療	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
国民所得はどう決まるか?	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ゲームの状況を科学する	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
公共政策：暮らしの社会科学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
はじめての経営学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
企業診断ABC	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会科学のデータ分析	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会学A	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会学B	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会学C	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
新聞報道の現場から	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	読売新聞との連携講義
人間の行動・心理と建築	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
平和論	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
国際政治	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
比較政治史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
シティズンシップ入門	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講
地域力を高めるひとつづくり	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講

一般教養科目 文化と人間性の探求

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
日本文化の理解	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
人類学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期 2クラス開講
日本語コミュニケーション	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
囲碁に学ぶ	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	日本棋院との連携講義
ヨーロッパの文化と歴史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
文化に見る歴史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
アメリカ史入門	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
都市と地域構造の地理学	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
音楽と文化	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
デザインと情報	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	自	○	
人間と表現	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義
自分とみんなで考える哲学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
応用倫理学	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講
心理学概論	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
心理学入門	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
西洋の教育と哲学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
次世代育成と地域の課題	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
デジタル時代の人文学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
世界を理解するための宗教学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本の宗教の歴史と文化	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
キー・コンピテンシー	講義	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○	2025年度 非開講

一般教養科目 人間と自然

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
科学史	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境と社会・制度・政治・経済	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境科学	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	名古屋市環境局環境科学調査センターとの連携講義：前期・後期ともに開講
植物の多様性と環境	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	自	○	集中講義
動物とヒトの進化多様性	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	自	○	
社会と医学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
くずりと社会	講義	1	後	2	○	○	○	自	○	○	○	○	
都市と自然	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
健康と生活	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義及び後期に開講
リハビリテーション概論	講義	1	後	2	○	○	自	○	○	○	○	○	
行動生態学	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	集中講義

一般教養科目 自然と数理の探求

(抽選対象科目)

授業科目 (副題)	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
教養として知っておきたい様々な病気	講義	1	前後	2	自	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
創薬と生命	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
宇宙のなりたち	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	自	
植物とバイオテクノロジー	講義	1	前	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
エネルギーのサイエンス	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
バイオサイエンス入門	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
情報と数理の世界	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	自	
データサイエンスへの誘い	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
地球史入門	講義	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	前期・後期ともに開講
地域生態学	講義	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	

語学科目 英語

(抽選対象科目)

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
A	IS: Community	演習	1	前後	1	○	○	○	○	○	○	○	区分Aの科目は各学期の 〔前半〕〔後半〕で、それ ぞれ全8回で完結します。
	IS: Social Justice	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
	IS: Life & Work	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
	IS: Health & Well-being	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
	IS: The Arts	演習	1		1	○	○	○	○	○	○	○	
B	AE: Make a Difference in Your Community	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Interact Internationally	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Improve Life Skills	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	AE: Produce a Movie	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
C	CS: Presentation	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	英語力調査 (TOEIC L&R IP) の結果に 基づき熟度別クラス編成を行います。
	CS: Grammar and Usage	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	CS: TOEIC Preparation	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	CS: Writing	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
D	EM: World News	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	
	EM: Popular Culture	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	EM: Reading for Inspiration	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	
	EM: Online Articles and Videos	演習	1		2	○	○	○	○	○	○	○	

《英語プログラム内容紹介》

◆ **区分A: Issues in Society (Lectures & Discussion)**

◆ **区分B: Action in English**

ネイティブ教員が担当し、授業はすべて英語で行われます。概ねTOEIC 500点以上の学生を想定した授業を行います。

スコアは目安として提示しているものであり、英語力調査 (TOEIC IP) のスコアが500点未満だと受講できないということではありません。興味、学ぶ意欲のある学生は、ぜひチャレンジしてください。

◆ **区分C: Core Skills in English**

CS: Grammar and UsageとCS: TOEIC PreparationはTOEIC IPのスコアを基にした習熟度別クラス編成となります。
CS: PresentationとCS: Writingはネイティブ教員が担当します。

◆ **区分D: English through Media**

科目 (クラス) によってTOEIC推奨スコアが提示される場合がありますので、科目選択の参考にしてください。

* <英語力調査 (TOEIC L&R IPテスト) について>

本学では、学生の英語コミュニケーション能力を測るため、全学部1年生を対象とした「英語力調査 (TOEIC L&R IPテスト)」を4月当初に実施しています。テスト結果は、1年次における教養英語科目 (区分 C) のクラス編成に使用します。

TOEIC (Test of English for International Communication) は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。英語力を客観的に証明する指標として進学や就職など様々な場面で活用されています。本学で実施しているTOEIC IPテストとは、TOEICと同様の試験内容のテストを本学主催で行うものです。

語学科目 その他の言語

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
ドイツ語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	「その他の言語」の修得必要単位として算入できます。
ドイツ語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
韓国語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
韓国語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
スペイン語初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
スペイン語初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本手話初級1	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本手話初級2	演習	1	後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ポルトガル語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
ロシア語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
イタリア語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
アラビア語入門	演習	1	前後	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本語上級1	演習	1	前	2				○	○	○	○	○	
日本語上級2	演習	1	後	2				○	○	○	○	○	
ドイツ語初級会話1	演習	1	前	2	自	自	自	自	○	○	○	自	《経済学部》 《人文社会学部》 《芸術工学部》 「その他の言語」の修得必要単位としては算入できませんが、卒業必要単位として算入することができます。
ドイツ語初級会話2	演習	1	後	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
フランス語初級会話1	演習	1	前	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
フランス語初級会話2	演習	1	後	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
中国語初級会話1	演習	1	前	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
中国語初級会話2	演習	1	後	2	自	自	自	自	○	○	○	自	
日本語レポート作成1	演習	1	前	2				自	○	○	○	自	
日本語レポート作成2	演習	1	後	2				自	○	○	○	自	
日本語リーディング・リスニング1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語リーディング・リスニング2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	
日本語プレゼンテーション1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語プレゼンテーション2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	
日本語ライティング1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語ライティング2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	
日本語ディスカッション1	演習	1	前	2				自	自	自	自	自	
日本語ディスカッション2	演習	1	後	2				自	自	自	自	自	

- 注) 1 それぞれの母語を履修することはできません。
 2 以下の日本語科目を履修できるのは外国人特別学生（留学生）に限ります。
 ・日本語上級1、2
 ・日本語リーディング・リスニング1、2
 ・日本語ライティング1、2
 ・日本語レポート作成1、2
 ・日本語プレゼンテーション1、2
 ・日本語ディスカッション1、2
 3 各言語の「初級2」を履修するためには、同じ言語の「初級1」を履修中または履修済みであることが必要です。

情報科目

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
医療統計学基礎	※	1	前	1	●								※講義及び演習
情報リテラシー	※	1	前	1	●	●	●	●	●	●	●	●	※講義及び演習
データサイエンス・リテラシー	※	1	後	1	自	●	●	●	●	●	●	●	※講義及び演習
デジタル表現基礎	※	1	前	1							●		※講義及び演習

健康・スポーツ科目

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* 健康・スポーツ科学	講義	1	前	1	●	●	●	●	●	●	●	●	
健康・スポーツ実技	実技	1	後	1		自				自		自	保育士・教職課程履修学生に限る

ボランティア科目

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
ボランティア科目1	実習	1	随時	1	自	自	自	自	○	○	自	自	
ボランティア科目2	実習	1	随時	1	自	自	自	自	○	○	自	自	

物理学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
物理学基礎	講義	1	前	2				● 一自				○	《薬学部》大学入学共通テストでの「物理」を選択していない者は必修、受験者は自由。
力学	講義	1	前後	2	○			○				○	
電磁気学	講義	1	後	2	○			○				○	
波動・熱力学	講義	1	後	2	○							○	

化学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
化学概論	講義	1	前	2				○					
化学基礎	講義	1	前	2								○	
化学熱力学基礎	講義	1	前	2				○				○	
有機化学	講義	1	後	2	○							○	
生体分子化学	講義	1		2	○								2025年度 非開講

生物学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
基礎生物学	講義	1	前	2	○							○	
生物学基礎	講義	1	前	2				● 一自					《薬学部》大学入学共通テストでの「生物」を選択していない者は必修、受験者は自由。
生物学	講義	1	後	2	○			○				○	

自然科学実験

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* 自然科学実験	実験	1	後	1	○			●				●	

数学・統計学

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
* 微分積分学	講義	1	前後	2	○			○					学部により前期または後期
* 線形代数学Ⅰ	講義	1	前	2	○			○				●	
線形代数学Ⅱ	講義	1	後	2	○			○				○	
* 数学AⅠ	講義	1	前	2					○				
* 数学BⅠ	講義	1	前	2					○				
* 数学AⅡ	講義	1	後	2					○				
* 数学BⅡ	講義	1	後	2					○				
* 統計学A	講義	1	前	2					○				
統計学B	講義	1	後	2					○	○		○	
微分積分基礎	講義	1	前後	2								●	学科により前期または後期
線形代数基礎	講義	1	前後	2								●	学科により前期または後期
微分積分基礎演習	演習	1	前後	1								●	学科により前期または後期
線形代数基礎演習	演習	1	前後	1								●	学科により前期または後期
数学A	講義	1	後	2			○						
数学B	講義	1	後	2			○						
確率統計学	講義	1	前	2			○						

注) 「線形代数学Ⅱ」「数学AⅡ、BⅡ」を履修するためには、各科目の「Ⅰ、1」を履修中または履修済みであることが必要です。

地域参加型学習

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
名古屋市立大学多職種連携教育：基礎	演習実習	1	通年	2	●	●	●	●					《薬学部》薬学科は必修
地域連携参加型学習	演習	1	後	2					○	○	○		一部集中講義として開講

看護基礎

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
基礎科学	講義	1	前	2		●							
家族社会学	講義	2	後	2		●							

早期体験学習

授業科目	授業形態	配当年次	開講期	単位数	医	看	リハ	薬	経	人	芸	理	備考
生命薬科学研究入門	演習	1	通年	2				●					生命薬科学科は必修

(2) 集中講義開講予定

科 目	担当教員	開講予定期間
SDGs を考える 自然系	高石 鉄雄	8 月
次世代エネルギーワークショップ	鵜飼 宏成	7、8 月
ソーシャル・デザイン実践編	稲葉 久之	8 月
人間と表現	針貝 綾 他	8 月
植物の多様性と環境	木藤 新一郎 他	9 月
健康と生活	尾崎 康彦 他	9 月
行動生態学	村瀬 香	9 月
地域連携参加型学習	鵜飼 宏成※	詳細はシラバスをご確認ください。
起業家になる	鵜飼 宏成	12 月～2 月

※他の教員が担当する「地域連携参加型学習」は後期月曜 3・4 限開講です。

- ・担当教員の都合等により、開講期間が変更されることがあります。
- ・学外実習は、諸事情により非開講となる場合があります。これらの場合は学務情報システムでお知らせします。
- ・受講希望者多数の場合は、各期 1 科目の登録に調整する場合があります。

履修登録の方法・時期等については、5 月下旬～6 月上旬に学務情報システムでお知らせします。

6 教養教育科目における修得必要単位数及び進級要件

2025 年度入学生にかかる教養教育の修得必要単位数は以下のとおりです。

(1) 医学部(医学科)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目					
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位	NCU ラーニング・コンパス (1)	左記以外に「一般教養科目」又は「その他の言語」の区分の選択科目から 2 単位以上 (a 参照)	
				2 単位			
		現代社会の諸相	4 単位 (b 参照)				
		文化と人間性の探求					
		人間と自然	2 単位				
	自然と数理の探求						
	語学科目	英語	6 単位 (c 参照)				
		その他の言語	2 単位 (d 参照)				
	情報科目		2 単位	情報リテラシー(1) 医療統計学基礎(1)			
	健康・スポーツ科目		1 単位	健康・スポーツ科学(1)			
ボランティア科目 (e 参照)							
基礎科目	物理学	4 単位					
	化学						
	生物学						
	数学・統計学	4 単位					
	地域参加型学習	2 単位	名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)				
合 計		3 2 単位					

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- 教養教育科目の修得必要単位数(32単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、「一般教養科目」又は「その他の言語」の選択科目から2単位以上の修得が必要です。
- 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て2単位まで、修得科目の内容に応じて一般教養科目「現代社会の諸相」又は「文化と人間性の探求」のいずれかに算入することができます。
- 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- ボランティア科目は自由科目です。

イ 2年次への進級要件

1年次終了時において、アに定める修得必要単位32単位の全てを修得していない者は2年次に進級できません。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については医学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(2) 医学部(保健医療学科看護学専攻)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3単位	1単位 NCU ラーニング・コンパス(1) 2単位	
		現代社会の諸相	4単位	(a 参照)	
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	4単位		
		自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6単位 (b 参照)		
		その他の言語	4単位 (c 参照)		
	情報科目	2単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)		
	健康・スポーツ科目	1単位	健康・スポーツ科学 (1)		
	ボランティア科目 (d 参照)				
基礎科目	地域参加型学習	2単位	名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)		
	看護基礎	2単位	基礎科学(2)		
		2単位	家族社会学(2)		
合 計		30単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位数は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 単位互換事業により他大学において修得した単位数は、教授会の議を経て2単位まで修得科目の内容に応じて「大学特色科目」を除く一般教養科目のいずれかの区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位数として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位数とすることはできません。
- d ボランティア科目は自由科目です。

イ 3年次への進級要件

- (1) 教養教育については進級要件の定めがありませんが、専門教育では定められています。専門教育における要件については看護学部「専門教育履修要項」を参照してください。
- (2) 2年次以降は専門科目の履修や各種実習にかかる時間的制約により、教養科目の再履修が非常に困難になるため、配当された学年・学期に確実に修得するよう心掛けてください。

(3) 医学部(保健医療学科リハビリテーション学専攻)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 2 単位	左記以外に2単位以上
		現代社会の諸相	4 単位		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	2 単位		
	自然と数理の探求				
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)		
健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)			
ボランティア科目(d 参照)					
基礎科目	数学・統計学	4 単位			
	地域参加型学習	名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)			
合 計		30 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 単位互換事業により他大学において修得した単位は、教授会の議を経て2単位まで修得科目の内容に応じて「大学特色科目」を除く一般教養科目のいずれかの区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d ボランティア科目は自由科目です。

イ 2年次への進級要件

1年次終了時において、アに定める修得必要単位30単位うち28単位を修得していない者は2年次に進級できません。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻「専門教育履修要項」を参照してください。

(4) 薬学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 2 単位
		現代社会の諸相	4 単位(a 参照)	
		文化と人間性の探求		
		人間と自然	2 単位	
	自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)	左記には 区分 A 又は 区分 B の 2 単位を含むこと
		その他の言語	2 単位 (c 参照)	
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)	
健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)		
ボランティア科目 (f 参照)				
基礎科目	物理学 (d 参照)	大学入学共通テストで「物理」を選択していない場合 物理学基礎(2)		左記を含め、4 区分から合計 8 単位以上 (e 参照)
	生物学 (d 参照)	大学入学共通テストで「生物」を選択していない場合 生物学基礎(2)		
	化学			
	数学	4 単位		
	自然科学実験	1 単位	自然科学実験(1)	
	地域参加型学習	2 単位	【薬学科】 名古屋市立大学多職種連携教育：基礎(2)	
早期体験学習	【生命薬科学科】 生命薬科学研究入門(2)			
合 計		31 単位		

※必修科目（一部選択必修科目）については各科目区分に科目名（単位数）を記載しています。

※自由科目の単位数は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て 4 単位まで、修得科目の内容に応じて一般教養科目「現代社会の諸相」又は「文化と人間性の探求」のいずれかに算入することができます。
- b (1) 外部機関が実施する検定試験（実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL）の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大 4 単位まで認定を受けることができます。詳細は p. 16 を確認してください。
(2) 「英語」の「区分 A」「区分 B」に該当する科目は p. 22 の科目一覧を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d 「物理学」及び「生物学」の必修科目について
- 大学入学共通テストでの「物理」受験者が「物理学基礎」を履修した場合は自由科目となります。
 - 大学入学共通テストでの「生物」受験者が「生物学基礎」を履修した場合は自由科目となります。
 - 大学入試共通テストを課さない選抜方法により入学した場合には、高校で履修した科目や大学入試共通テストの受験科目を事前に大学が確認し、必修となる科目を指定します。
- e 「物理学」「生物学」「化学」「数学」については、各科目区分の最低修得必要単位数を含め、4 区分の合計で 8 単位以上の修得が必要です。
- f ボランティア科目は自由科目です。

イ 2 年次への進級要件

1 年次終了時において、アに定める修得必要単位数のうち、「健康・スポーツ科学」1 単位及び「自然科学実験」1 単位並びに「名古屋市立大学多職種連携教育：基礎」2 単位又は「生命薬科学研究入門」2 単位を含め 29 単位以上を修得していない者は 2 年次に進級できません。

※ 31 単位数は修得必要単位数の表に記載された各科目の単位数の合計を基にしたものであり、単純な修得単位数の合計ではありません。必修科目の修得には特に注意をはらってください。

※これは教養教育における進級要件です。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については薬学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(5) 経済学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 4 単位
		現代社会の諸相	8 単位	
		文化と人間性の探求		
		人間と自然	4 単位	
	自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)	
		その他の言語	4 単位 (c 参照)	
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)	
健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)		
ボランティア科目				
基礎科目	数学・統計学	数学 6 単位 統計学 2 単位		
	地域参加型学習			
合 計		4 2 単位		

左記以外に 4 単位以上 (a 参照)

※必修科目（一部選択必修科目）については各科目区分に科目名（単位数）を記載しています。
 ※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数（4 2 単位）を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から 4 単位以上の修得が必要です。
 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て 2 単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大 4 単位まで認定を受けることができます。詳細は p. 16 を確認してください。
- c (1) それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
 (2) 各言語の「会話 1、2」「日本語レポート作成 1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記 a (1) に示した修得必要単位数 4 単位に算入することができます。

イ 3 年次への進級要件

2 年次終了時において、アに定める修得必要単位数 4 2 単位のうち、下記の必要単位数を修得していない者は 3 年次に進級できません。

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数	
共通科目	一般教養科目	5 単位	NCU ラーニング・コンパス (1)
	外国語科目	英語	4 単位
		その他の言語	2 単位
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)
健康・スポーツ科目	1 単位		
基礎科目	数学・統計学	数学 6 単位・統計学 2 単位 ただし、外国人特別学生は数学・統計学合わせて 6 単位	
合 計		2 2 単位 ただし、外国人特別学生は 2 0 単位	

※これは教養教育における進級要件です。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については経済学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(6) 人文社会学部(心理教育学科・現代社会学科)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 4 単位	左記以外に 10単位 以上 (a参照)
		現代社会の諸相	4 単位		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然	4 単位		
		自然と数理の探求			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目	2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)		
	健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)		
ボランティア科目					
基礎科目	数学・統計学				
	地域参加型学習				
合 計		3 6 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数(36単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から10単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b (1)外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
(2)英語を母語とする外国人特別学生は、英語を履修して卒業必要単位とすることはできません。この場合、英語科目の卒業必要単位は、教養教育科目及び専門教育科目において、英語科目及び英語関係科目以外で修得した単位をもって充当することができます。
- c (1)それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2)各言語の「会話1、2」「日本語レポート作成1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記a(1)に示した修得必要単位数10単位に算入することができます。

(7) 人文社会学部(国際文化学科)

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目					
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位	NCU ラーニング・コンパス (1)	左記以外に 4 単位以上 (a 参照)	
				4 単位			
		現代社会の諸相	4 単位				
		文化と人間性の探求					
		人間と自然	4 単位				
	自然と数理の探求						
	語学科目	英語	1 2 単位 (b 参照)	区分 A から 4 単位、区分 B から 4 単位を含めて 12 単位			
		その他の言語	4 単位 (c 参照)				
	情報科目		2 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)			
健康・スポーツ科目		1 単位	健康・スポーツ科学(1)				
ボランティア科目							
基礎科目	数学・統計学						
	地域参加型学習						
合 計		3 6 単位					

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数(36単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から4単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b (1) 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
(2) 「英語」の「区分A」「区分B」に該当する科目はp.22の科目一覧を確認してください。
(3) 英語を母語とする外国人特別学生は、英語を履修して卒業必要単位とすることはできません。この場合、英語科目の卒業必要単位は、教養教育科目及び専門教育科目において、英語科目及び英語関係科目以外で修得した単位をもって充当することができます。
- c (1) それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2) 各言語の「会話1、2」「日本語レポート作成1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記a(1)に示した修得必要単位数4単位に算入することができます。

(8) 芸術工学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目		
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位	1 単位 NCU ラーニング・コンパス (1) 4 単位
		現代社会の諸相	2 単位 (b 参照)	
		文化と人間性の探求		
		人間と自然	2 単位	
		自然と数理の探求		
	語学科目	英語	6 単位 (c 参照)	
		その他の言語	4 単位 (d 参照)	
	情報科目	3 単位	情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1) デジタル表現基礎(1)	
	健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学(1)	
ボランティア科目 (e 参照)				
基礎科目	数学・統計学	6 単位	微分積分基礎(2) 微分積分基礎演習(1) 線形代数基礎(2) 線形代数基礎演習(1)	
	地域参加型学習			
合 計		31 単位		

左記以外に
2単位以上
(a参照)

※必修科目については各科目区分に科目名(単位数)を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数(31単位)を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、共通科目又は基礎科目の選択科目から2単位以上の修得が必要です。
- b 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て2単位まで、修得科目の内容に応じて一般教養科目「現代社会の諸相」又は「文化と人間性の探求」のいずれかに算入することができます。
- なお、専門科目として認定を希望する場合は、芸術工学部履修要項を参照してください。
- c 外部機関が実施する検定試験(実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL)の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大4単位まで認定を受けることができます。詳細はp.16を確認してください。
- d (1)それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
(2)各言語の「会話1、2」「日本語レポート作成1、2」を履修したことにより修得した単位は「その他の言語」の修得必要単位数には算入されませんが、上記aに示した修得必要単位数2単位に算入することができます。
- e ボランティア科目は自由科目です。

イ 4年次への進級要件

3年次終了時において、アに定める修得必要単位31単位のうち、下記の必要単位数を修得していない学生は4年次に進級できません。

教養教育科目及び専門教育科目の修得単位数が、必修科目においては3年次までに配当されている授業科目単位数の8割以上、選択科目においては卒業要件単位数の6割以上であること。

<参考>教養教育科目における必修科目 9科目 11単位
NCU ラーニング・コンパス(1) 情報リテラシー(1) データサイエンス・リテラシー(1)
デジタル表現基礎(1) 健康・スポーツ科学(1) 微分積分基礎(2) 線形代数基礎(2)
微分積分基礎演習(1) 線形代数基礎演習(1)

※これは教養教育における進級要件です。

専門教育にも同様に進級要件が設けられており、年次進級に際しては両方の要件を満たさなければなりません。専門教育における要件については芸術工学部「専門教育履修要項」を参照してください。

(9) 総合生命理学部

ア 修得必要単位数

区 分		科目区分ごとの最低修得必要単位数及び必修科目			
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位	1 単位 NCUラーニング・コンパス (1) 2 単位	左記以外に 2 単位 (a 参照)
		現代社会の諸相	4 単位		
		文化と人間性の探求			
		人間と自然			
	語学科目	英語	6 単位 (b 参照)		
		その他の言語	4 単位 (c 参照)		
	情報科目	2 単位	情報リテラシー (1) データサイエンス・リテラシー (1)		
	健康・スポーツ科目	1 単位	健康・スポーツ科学 (1)		
	ボランティア科目 (d 参照)				
	基礎科目	物理学	2 単位		
化学		2 単位			
生物学		2 単位			
自然科学実験		1 単位	自然科学実験 (1)		
数学・統計学		2 単位	線形代数学 I (2)		
合 計		3 9 単位			

※必修科目については各科目区分に科目名 (単位数) を記載しています。

※自由科目の単位は修得必要単位数に含めることはできません。

- a 教養教育科目の修得必要単位数 (3 9 単位) を充たすためには、各科目区分の最低修得必要単位数のほか、一般教養科目の選択科目から 2 単位以上の修得が必要です。
単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て 2 単位まで、修得科目の内容に応じて上記に示した区分に算入することができます。
- b 外部機関が実施する検定試験 (実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL) の獲得点数に基づいて、英語科目の単位として最大 4 単位まで認定を受けることができます。詳細は p. 16 を確認してください。
- c それぞれの母語を履修して「その他の言語」の卒業必要単位とすることはできません。
- d ボランティア科目は自由科目です。

イ 3 年次への進級要件

2 年次終了時において、アに定める修得必要単位数 3 9 単位のうち以下の必修科目を含む 3 5 単位以上を修得していない者は 3 年次に進級できません。

NCU ラーニング・コンパス (1)、情報リテラシー (1)、データサイエンス・リテラシー (1)、健康・スポーツ科学 (1)、自然科学実験 (1)、線形代数学 I (2)